

第 13 回 由良川水系・二級水系河川整備計画検討委員会

【圏域の現状と課題（補足等）】

目 次

1 . 河川の整備状況について	1
2 . 生物の多様性について	2
3 . 生物学的水質判定について	3

平成 22 年 11 月 14 日（日）
京 都 府

圏域の現状と課題(補足等)

河川の整備状況について

第12回委員会資料 【由良川下流圏域の現状と課題について】P6について、
 ・「整備済区間」 「概ね1時間50mmの降雨水準に達している区間」
 ・「未整備区間」 「概ね1時間50mmの降雨水準に達していない区間」 に言葉を変更致します。

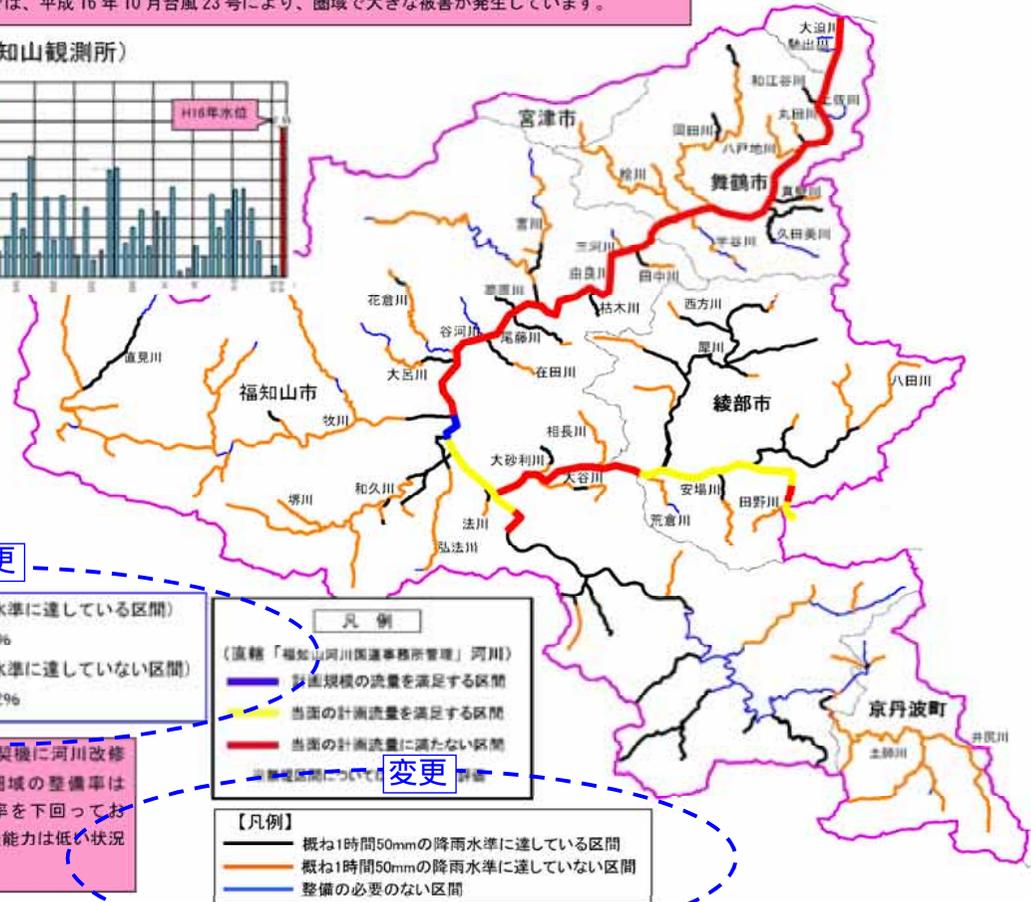
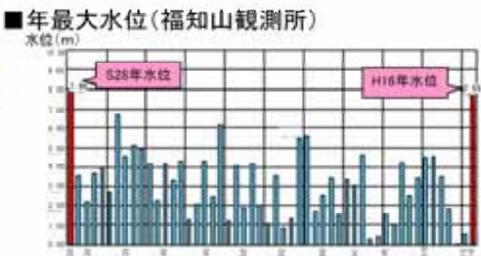
治水に関する現状 4

下流圏域の既往水害と河川整備状況

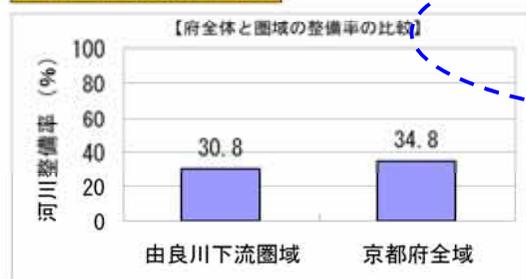
既往水害一覧						
西暦	発生日	要因	総雨量 (mm)	最大水位 (m)	最大流量 (m ³ /s)	被害状況
1953	昭和28.9.25	台風13号	360.2	7.80	6,500	災害救助法適用。死者36人、行方不明1人、負傷者933人。家屋浸水205戸、全壊1,118戸。半壊1,432戸。床上浸水5,307戸。床下浸水2,434戸
1958	昭和33.9.26	伊勢湾台風(15号)	247.6	7.10	4,304	災害救助法適用。死者2人、行方不明1人、負傷者23人。家屋浸水24戸、全壊13戸。半壊214戸。床上浸水4,455戸。床下浸水2,450戸
1961	昭和36.10.25	台風24号	234.6	5.53	2,402	災害救助法適用。床上浸水767戸。床下浸水1,340戸。住宅被害174戸
1965	昭和40.9.17	秋田前線台風24号	473.6	5.41	2,333	家屋全壊4戸。半壊46戸。損壊327戸。床上浸水411戸。床下浸水1,334戸
1972	昭和47.5.16	台風20号	188.1	6.15	4,083	負傷者5人。家屋全壊4戸。半壊33戸。床上浸水523戸。床下浸水1,024戸
1982	昭和57.8.1	台風10号	188.3	5.45	3,636	床上浸水40戸。床下浸水65戸
1983	昭和58.9.28	台風10号	245.6	5.57	3,608	床上浸水23戸。床下浸水49戸
1990	平成2.9.20	台風16号	250.3	4.64	2,469	床下浸水62戸(非住家含む)
1995	平成7.5.12	低気圧	177.1	4.23	2,242	床下浸水3戸。床上浸水1戸
1998	平成10.9.22	台風7号	144.9	4.49	2,178	床下浸水5戸(内4戸は非住家)
1999	平成11.6.30	梅雨前線	121.5	4.57	2,203	床下浸水1戸。床上浸水1戸
2004	平成16.10.20	台風23号	288.7	7.55	5,285	災害救助法適用。死者5人。床上浸水1,251戸。床下浸水418戸

出典：国土交通省福知山河川国道事務所資料

・戦後最大の被害は、昭和28年9月台風13号洪水
 ・その後、昭和30年代、昭和40年代にも大きな被害の洪水が発生し、河川改修が行われてきました。
 ・昭和50年代以降では、平成16年10月台風23号により、圏域で大きな被害が発生しています。



府管理河川の現在の整備状況



(概ね1時間50mmの降雨水準に達している区間)
 延長 91 km / 295 km = 30.8%
 (概ね1時間50mmの降雨水準に達していない区間)
 延長 204 km / 295 km = 69.2%

これまで災害などを契機に河川改修が行われてきたが、圏域の整備率は30.8%と府全体の整備率を下回っており、全体的に河川の疎通能力は低い状況です。

凡例
 (直轄「福知山河川国道事務所管理」河川)
 ■ 計画規模の流量を満足する区間
 ■ 当面の計画流量を満足する区間
 ■ 当面の計画流量に満たない区間
 ■ 河川区間についての変更

【凡例】
 ■ 概ね1時間50mmの降雨水準に達している区間
 ■ 概ね1時間50mmの降雨水準に達していない区間
 ■ 整備の必要のない区間

※上記以外の区間は、渓谷部のように左右岸とも山地斜面となっているなど改修の必要がない区間です。

現状

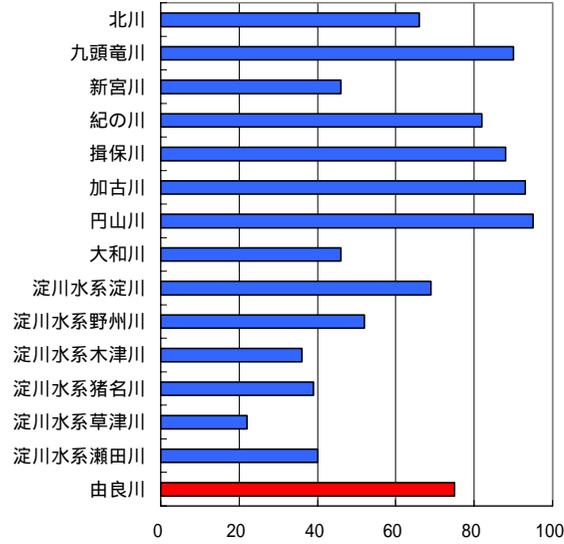
・府管理河川では依然として全体的に河川の整備率(概ね1時間50mm対応)が低く、直轄区間についても計画規模の流量(福知山5,600m³/s)を満足する区間の割合は少ない状況です。

圏域の現状と課題(補足等)

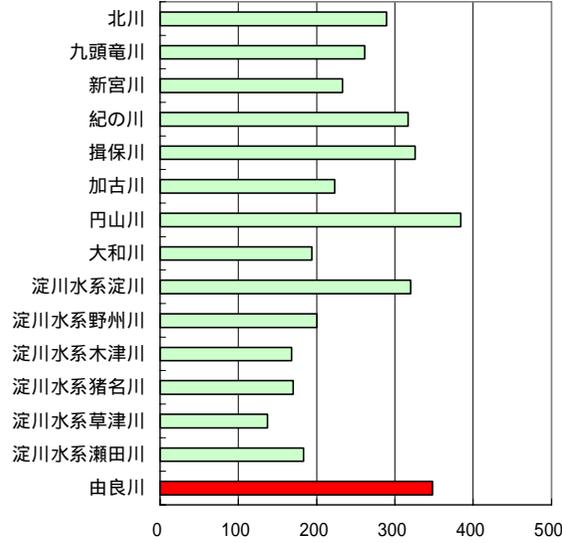
生物の多様性について

- ・河川水辺の国勢調査の実施結果より、平成3～17年度における確認種数を近畿地方の水系毎に整理しました。
- ・由良川水系は、近畿地方でも有数の魚や植物の種類が多い川です。

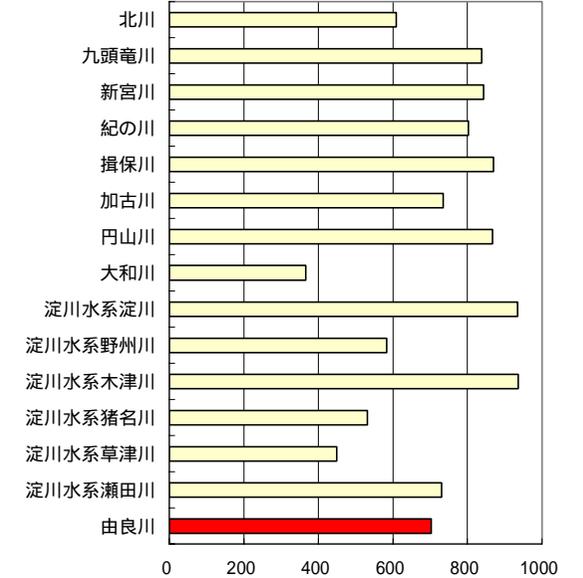
確認された魚類種数



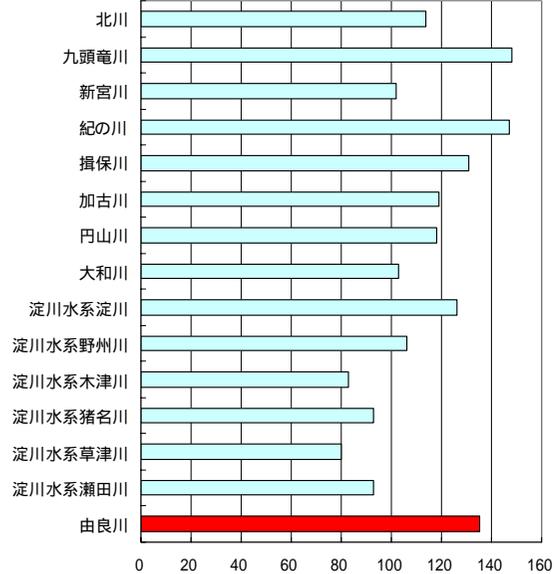
確認された底生動物種数



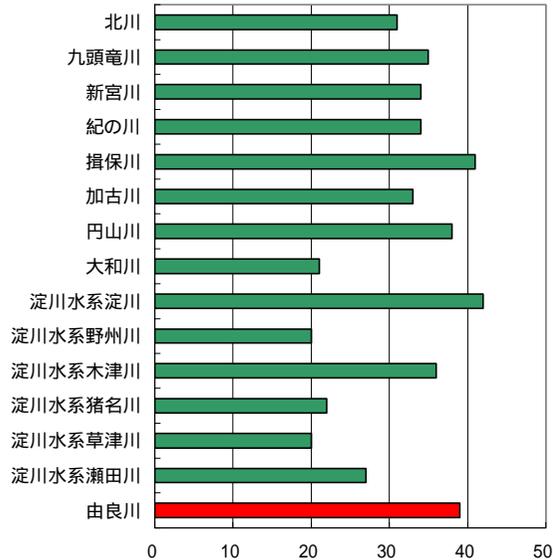
確認された植物種数



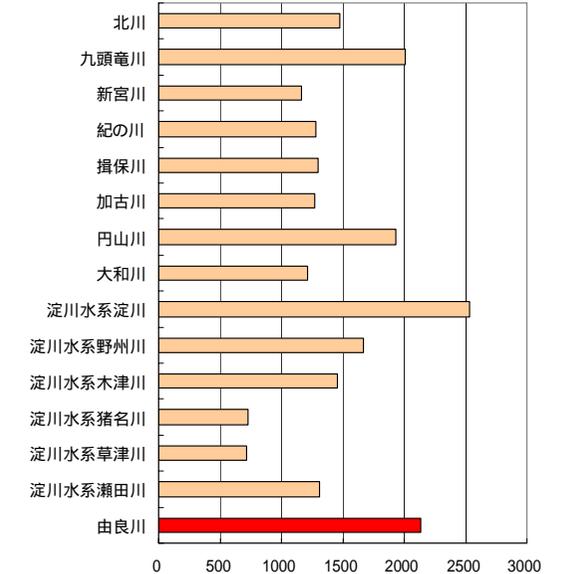
確認された鳥類種数



確認された両生類・爬虫類・ほ乳類種数



確認された陸上昆虫等種数



圏域の現状と課題(補足等)

生物学的な水質判定について

・河川の中にさまざまな生物が生息していますが、特に川底に生息する生物は、過去から調査時点までの長時間の水質の状況を反映した結果でもあります。したがってどのような生物が生息しているかを調べることで、その地点の水質の状態を知ることができます。

・由良川流域水生生物調査結果(国土交通省HP)より、平成10～21年度において確認された水生生物の確認状況から判断した水質評価を整理しました。

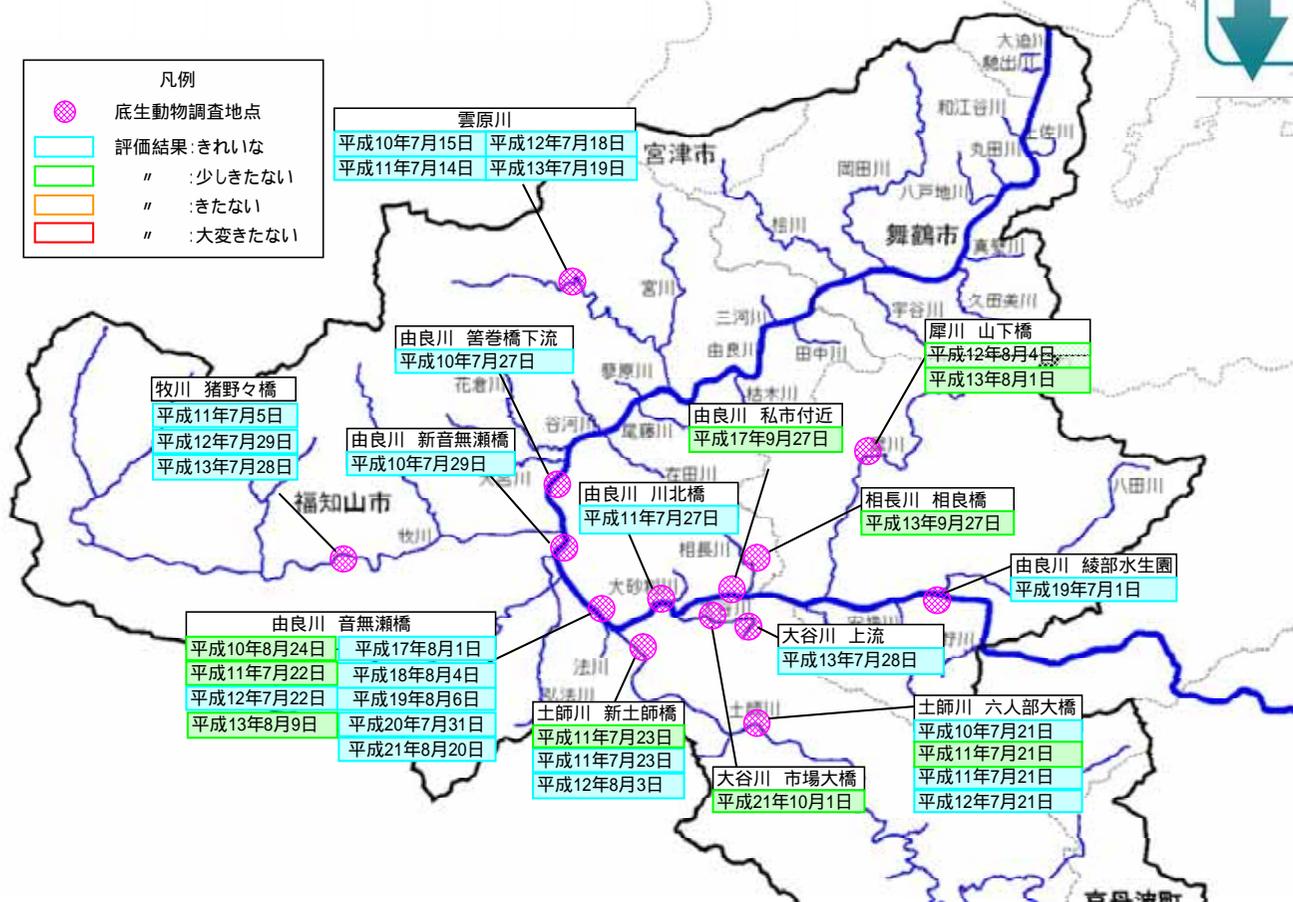
・由良川下流圏域では、河川に生息する生物の状況から判断される生物学的な水質階級は、4階級のうち、上位2階級の評価となっています。

水質と水生生物



凡例

	底生動物調査地点
	評価結果:きれいな
	" :少しきたない
	" :きたない
	" :大変きたない



(調査状況)



(調査結果の例)

調査結果			
日時:平成24年8月20日(晴)	天気:晴れ		
流れの速さ:(速)(流速60cm以上)	水温:26℃		
水の透明度:(透明)透明度できれい	水深:30cm		
調査結果: 水質階級【きれいな水】(調査生物:10.000以上)			
【水質階級Ⅰ】 (きれいな水) ウズムシ1匹 ナガイトビクラ1匹 (合計2匹)	【水質階級Ⅱ】 (少しきたない水) ヒラタドロマシ2匹 コオニヤンマ1匹 (合計3匹)	【水質階級Ⅲ】 (きたない水)	【水質階級Ⅳ】 (大変きたない水)
ナガイトビクラ	ヒラタドロマシ		

出典: 国土交通省福知山河川国道事務所HP